



ちなみに私の師匠であるK.P.Yesodha女史もここを卒業し舞踊学校の講師をする傍らダンサーとして国内外で活躍しています。

ルクミニ・デヴィの理想はカラクシェトラを通して見事に実現していくことになりました。世界中から生徒は集まりその卒業生もカラクシェトラの理想を世界に繋いでいます。インド文化遺産への貢献を認められたルクミニ・デヴィはインド政府から1956年に「Padma Bhushan」を授与されました。

カラクシェトラの劇場はルクミニ・デ



ヴィによって寺院の舞台を「Kuttambalam」のケララ形式によりデザインされています。美しい建物や舞台もまた「ナーティヤ・シャーストラ」に記述された多くの特色を持ち合わせます。

1993年インド政府により「Kalakushetra Foundation Act」は国の最も価値のある尊大なもののひとつであると宣言されました。

南インド古典舞踊・バラタナーティヤムは長い歴史の中で翻弄されながらも育まれてきた舞踊です。それは神という普遍的であり人類にとって不可欠な存在であり、計り知れないあこがれへの繋がりを持つものから、近年は高い芸術性も加わり、美しい姿勢とボディバランスを通して旋律・リズムを生命と創造の具体的な表現または永遠の宇宙の祝福であると言われています。

バラタナーティヤム「Bharatanatyam」の、BhaはBhava（感情）、raはRaga（旋律）、taはThala（リズム）、Natyamは舞踊を意味しています。

では、続いてはバラタナーティヤムの踊りの神・ナタラージャについて触れたいと思います。破壊と再生の神シヴァ神は、踊りの神・ナタラージャもしくはナティーシャとも呼ばれ特に南インドではとても親しまれています。シヴァ神の起源もまたインダス文明に遡り非アリアの要素が濃いものでした。元はルドラと呼ばれ豪雨、大雨、雷電によって破壊し災禍をもたらす恐ろしい面と同時に、雨は植物を育てる生命の源であり恩恵をもたらす二面性をもつ神であったようです。